旭川の巨樹・老木



旭川市を緑にする会

目次

指定保存樹木について　・・・

指定保存樹木について

１ 目的

指定保存樹木事業は、市内にある貴重な巨老木を「生きた文化財」として後世に引き継ぐために、保存樹木として指定し保護に努めるものです。

２ 指定保存樹木の認定条件

生育が健全で姿が美しく、次のいずれかの認定条件に該当する樹木が対象となります。

⑴地上 1.3m の幹周が 2.0m 以上の樹木
⑵地上 1.3m の幹周が 2.0m 以上の樹木が一部混在、または群生している樹林
⑶珍しい樹種
⑷伝承上重要な樹木または樹林

３ 指定保存樹木の取扱い

指定保存樹木については、目的達成のため、次のとおり事業を実施しています。

⑴周知活動
ア 標柱等の建て込み(※次ページ参照)
イ 案内板の設置(故事伝承のある樹木のみ)
ウ その他広報紙等によるもの
⑵保存支援
ア 樹勢調査(樹高・幹周や生育状況等の確認)
イ 保存処置支援(腐朽部等損傷処理、剪定、病害虫駆除等)

４ 指定保存樹木一覧

No.	名称	樹種	推定樹齢	所在地
1	駅前のヤチダモ	ヤチダモ	100	西神楽２線 42 号
2	越前の杉	スギ	120	神居町豊里 304
3	往来の楓	イタヤカエデ	160	東旭川町忠別 525
4	上南部の姫桜	エゾヤマザクラ	90	東旭川町瑞穂
5	神宿るオンコ	イチイ	170	西神楽１線 31 号
6	小鳥を呼ぶ蝦夷小林檎	エゾノコリンゴ	100	永山町 16 丁目
7	射的山の雲竜柳	ウンリュウヤナギ	100	永山町 16 丁目
8	シラカバ林の北辛夷	キタコブシ	50	忠和３条７丁目
9	道路を曲げた楓	イタヤカエデ	140	永山町５丁目
10	松平農場のオヒョウ	オヒョウ	270	東鷹栖４条５丁目
11	三河の赤松	アカマツ	110	東旭川町桜岡 239

５ 指定標柱について

指定保存樹木には、周知活動の一環として、次のような標柱や標板を設置しています。



駅前のヤチダモ

和　名　ヤチダモ(モクセイ科)
別　名　タモノキ
学　名　Fraxinus mandshurica var. japonica Maxim.
所在地　旭川市西神楽（千代ヶ岡駅前）
所有者　旭川土地改良区
幹周り　240cm
樹　高　22m（推定）
樹　齢　100 年（推定）
伝　承　国道 237 号線沿いのＪＲ千代ヶ岡駅前に数本のヤチダモの並木がある。
ここは、かつて神社境内だったが、駅建設の計画があがった際、住民から神様の木だから是非保護したいとの要望が出され、駅造成設計に配慮がなされた。



越前の杉

和　名　スギ(スギ科)
学　名　Cryptomeria japonicaD. Don
所在地　旭川市神居町豊里３０４
所有者　北海道
幹周り　160 ㎝
樹　高　１３m（推定）
樹　齢　120 年（推定）
伝　承　　大正の初め頃前田留四郎氏がこの地に入植した。郷里越前から樹齢 20 年程度のスギの木を持ち込み、記念として移植したのがこの木である。近年、道路拡張工事で、この木の場所も道路用地となったが、住民の強い要望によって伐採を免れた。北限を越えるこの地でのスギは貴重である。



往来の楓

和　名　イタヤカエデ(カエデ科)
別　名　エゾイタヤ、イタヤ、イタヤモミジ
学　名　Acer mono Maxim.
所在地　旭川市東旭川町忠別５２５
幹周り　310cm
樹　高　１９m（推定）
樹　齢　170 年（推定）
伝　承　大正 10 年頃、すでに高さ 10m 程もあった、この樹木は、辺りが水田で樹木も少なかったことから、今日同様きわだった存在であった。そして、この往来の道沿いにあったこの樹木は、涼を求め、休憩する場所として、また、待ち合わせの場所として利用されていた。

しかしながら、この大木も、存命の危機があり、昭和 15 年頃の大きな台風によって、今にも倒れそうになっているところ、大枝を一本切り落として守ったと言われており、今でもその切り口が残っており、当時をしのぶことができる。



上南部の姫桜

和　名　　エゾヤマザクラ(バラ科)
別　名　　オオヤマザクラ
学　名　　Prunus sargentii Rehder.
所在地　　旭川市東旭川町瑞穂
幹周り　　260 ㎝
樹　高　　８m（推定）
樹　齢　　90 年（推定）
伝　承　　上南部の水神様へ行く途中の右手の小高い所にある。周りに何本ものサクラの古木があるところをみると、かつて植樹したものであろう。その中でも、この一本が特に姿が良く、花色も濃く、花付きも良い。

ここへの入植は、明治 41 年頃のことであり、いつしかこの辺りの人たちは、このサクラの下に集い、春耕期の多忙な一時を割いて花見にこうじていた。



神宿るオンコ

和　名　イチイ(イチイ科)
別　名　オンコ、アララギ
学　名　Taxus cuspidate Sieb. et zucc.
所在地　旭川市西神楽１線３１号
幹周り　315cm
樹　高　１２m（推定）
樹　齢　170 年（推定）
伝　承　　明治 30 年ころ、この地に入植した藤井氏が、幹周 60 ㎝ほどのイチイを山で見つけ、それを宅地に移植したのがこの木である。その後、金比羅様を祀り、神木としてしめ縄、御神酒を供えて日々の安泰を祈ってきたという。かつて、この木を他の場所に移そうとしたが、重機やトラックが動かなくなり、霊を恐れて諦めたという話もある。



小鳥を呼ぶ蝦夷小林檎

和　名　エゾノコリンゴ(バラ科)
別　名　サンナシ、ヤマナシ、ヒロハオオズミ
学　名　Malus baccata var. mandshuricaC. K. Schn.
所在地　旭川市永山町１６丁目
幹周り　200 ㎝
樹　高　9m（推定）
樹　齢　100 年（推定）
伝　承　　水田地帯の中に立っている木で、この樹種では貴重な古木である。
　昔は近所の子どもたちが、次々とやってきては木に登り、赤く熟れた実を取って食べたという。また、その果実は、南下する小鳥たちの腹を満たしており、ムクドリの大群により、一夜にして無くなったこともあるという。



射的山の雲龍柳

和　名　ウンリュウヤナギ(ヤナギ科)
学　名　Salix matsudana var. tortuosa Vilm.
所在地　旭川市永山町１６丁目
幹周り　300 ㎝
樹　高　21m（推定）
樹　齢　100 年（推定）
伝　承　山の少ない永山に、屯田時代は“射的山”と呼ばれていた小高い丘がある。この丘の中腹に大きなウンリュウヤナギが立っており、遠くからでもよく見える。

大正の末期、先々代がこの水が絶えぬようにと願って、泉の湧きに一本のヤナギを植えたという。丘の中腹から清水が湧き出ており、上野家は代々この水で生活してきた。



シラカンバ林の北辛夷

和　名　キタコブシ(モクレン科)
学　名　Magnolia kobus var. borealis Sarg.
所在地　旭川市忠和３条７丁目
幹周り　210cm
樹　高　１４m（推定）
樹　齢　50 年（推定）
伝　承　　今はすっかり住宅地となっているこの辺りも、この樹木が植えられた 50 年程前は、あまり人家も無く、シラカンバ林であったという。

　この樹木を所有する寺澤家では、昔から縁起の良い木として大事に育てられ、今では、花を咲かせる春先になると、たくさんの人たちがここに集まり、やさしい色で優雅に咲きほこるキタコブシの花を楽しんでいる。



道路を曲げた楓

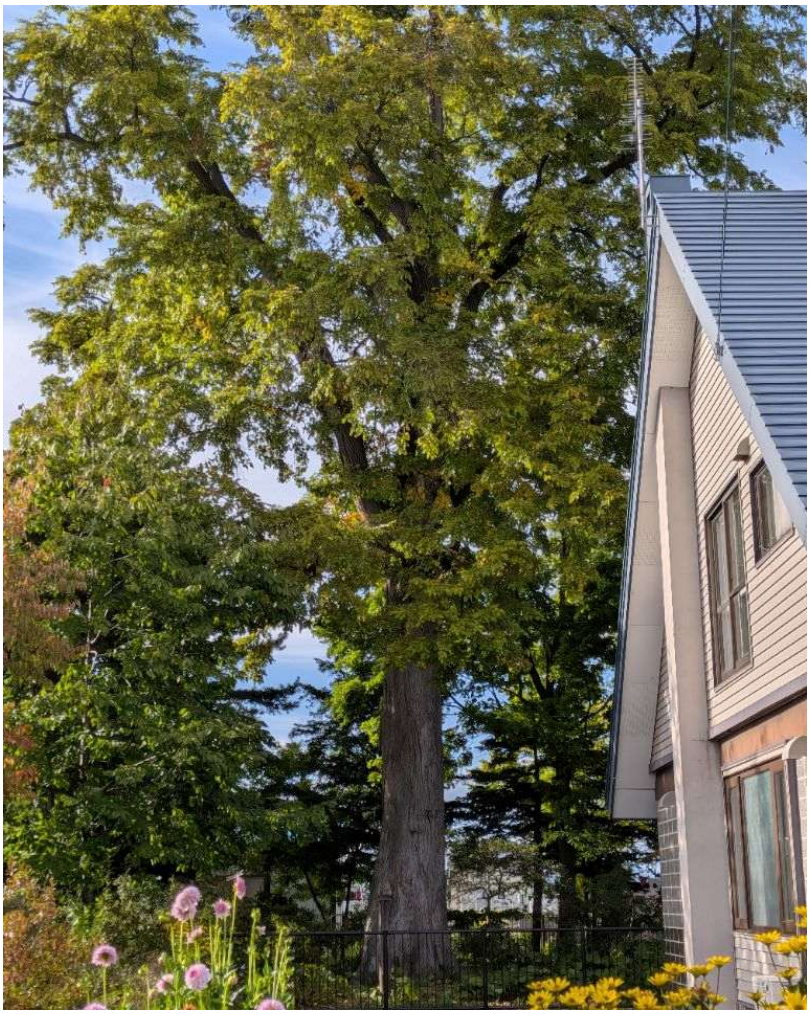
和　名　イタヤカエデ(カエデ科)
別　名　エゾイタヤ、イタヤ、イタヤモミジ
学　名　Acer mono Maxim.
所在地　旭川市永山町５丁目
幹周り　320cm
樹　高　17m（推定）
樹　齢　140 年（推定）
伝　承　　大正２年、先代が入植した当時、牛朱別川には堤防もなかったという。増水時に上流から流れ着いたのか、河原にこのカエデが立っていた。
　その後、堤防が築かれ、この河原は民地となり、人家も建った。通路を敷設する時に、このカエデが支障となったが、伐採するには忍びず、道路の線形を曲げてつけたという。



松平農場のオヒョウ

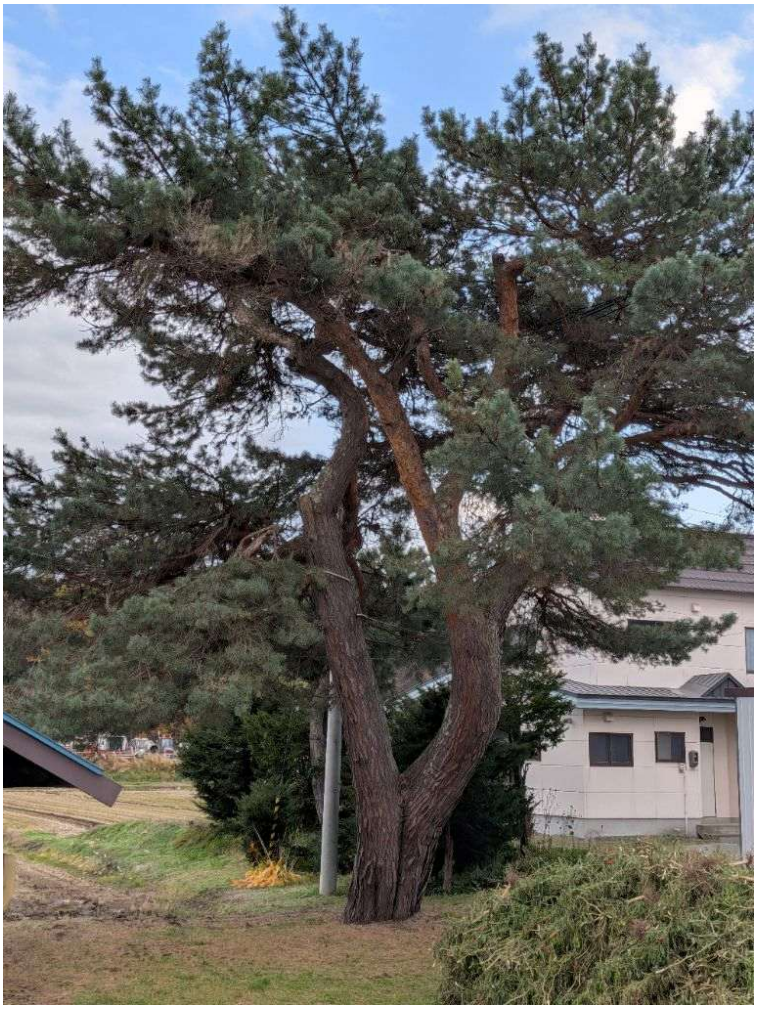
和　名　オヒョウ(ニレ科)
別　名　オヒョウニレ
学　名　Ulmus laciniata Mayr
所在地　旭川市東鷹栖４条５丁目
幹周り　400cm
樹　高　30m（推定）
樹　齢　260 年（推定）
伝　承　　この地は、明治中期、原始林を切り開き松平農場として開拓された。農場の中心には、管理事務所があり、その管理人住宅の庭に唯一残されていたのが、このオヒョウだったという。

　昭和 12 年頃、農場職員であった先代の西下氏が、払い下げを受けた。先代が、子どもの頃から大きな木であり、毎春の新緑が美しく、大事に見守ってくれているという。



三河の赤松

和　名　アカマツ(マツ科)
別　名　メマツ
学　名　Pinus densiflora sieb. et Zucc.
所在地　旭川市東旭川町桜岡２３９
幹周り　260 ㎝
樹　高　１１ｍ（推定）
樹　齢　１１０年（推定）
伝　承　　大正２年、当麻屯田の家族として来道した先々代当主が、永住の地をここに求めた。その当主の妻が故郷の三河の国(愛知県)から持参し植えたのが、このアカマツである。代々親から、記念樹だから大切にするように言われてきたという。
　旭川では、アカマツは珍しく、そのほとんどがヨーロッパアカマツである。



官公庁指定樹木一覧

1.北海道記念保護樹木

⑴由緒・由来のある樹木又は住民に親しまれている樹木の中で，郷土の記念樹木として保護することが必要なものについて，北海道自然環境等保全条例に基づき指定されたもの

⑵上川管内の対象樹木

ｱ.台場開拓記念保護樹木

⑦樹種　　イチイ

⑴場所　　旭川市神居町台場４０５

⑼由緒・由来　　開拓当時から自生する樹木

ｲ.永山開拓記念保護樹木

⑦樹種　　ドロノキ

⑴場所　　旭川市永山町１３丁目永山東小学校校庭

⑼由緒・由来　　屯田兵入植の記念木

ｳ.倉沼開拓記念保護樹木

⑦樹種　　カシワ

⑴場所　　旭川市東旭川町倉沼

⑼由緒・由来　　開拓の歴史を刻んできた樹木として，地域住民及び児童に親しまれている古木

2.北海道の巨樹・名木

⑴北海道内の巨樹・名木の保存に努め，併せて緑化思想の普及，学術の振興に寄与することを目的として選定されたもの

⑵上川管内の対象樹木

ｱ.神迎えるにれ

⑦樹種　　ハルニレ

⑴場所　　旭川市東旭川南１条６丁目８－１４旭川神社境内

ｲ.練兵場のにれ

⑦樹種　　ハルニレ

⑴場所　　旭川市東旭川南１条６丁目旭川中学校校庭

ｳ.護国神社のバッコヤナギ

⑦樹種　　エゾノバッコヤナギ

⑴場所　　旭川市花咲町１丁目護国神社境内

ｴ.嵐山のオンコの大木

⑦樹種　　イチイ

⑴場所　　旭川市江丹別国有地旭川事業区１４０林班わ小班

ｵ.永山開拓記念木

⑦樹種　　ドロノキ

⑴場所　　旭川市永山町１３丁目永山東小学校校庭

3.旭川市指定文化財

⑴梅の木

ｱ.種別　　記念物（天然記念物）

ｲ.場所　　旭川市東旭川町米原旭川第一小学校校庭

樹種解説

サルナシ（猿梨）

マタタビ科マタタビ属の樹で、キウイやマタタビと同じ仲間である。別名コクワ、シラクチヅル。これらの樹は、雌雄異株か雑居性である。サルナシは、樹木や岩にからみ、大きいものでは、樹高３０m、直径１０から１５㎝に達するという。忠別太駅逓跡地のサルナシは、幹周６０㎝であり、径１９㎝でやはり巨木の域に達している。サルナシのツルは、丈夫で腐りにくいため、昔はイカダや橋材にも使われたという。果実は、特有の香気があり、生食したり果実酒に使う。

ヤチダモ（タモノキ）

北海道の広葉樹の人工造林では、最も多く植えられている。モクセイ科トネリコ属の樹で雌雄異株。樹皮は灰白色で、枝は太く無毛。

スギ（杉）

スギは、日本の樹木ではクスノキに次いで大木になり、各地で巨樹、名木として指定されているものが少なくない。材は、建築、彫刻、家具、器具、楽器、樽等日本の材木の中では、最も広く利用されており、古くから各地で盛んに造林され大切にされた。葉は、線香、抹香として使われ、樹皮は屋根ぶきにも使用される。

自生スギの分布は、北限が本州、青森県西津軽とされており、北海道で散見されるスギは、すべて後から植林したものであろう。

イタヤカエデ（板屋楓）

カエデ科カエデ属であるイタヤカエデは、北海道から九州まで分布するが、本州では山地に生じる。板屋カエデの意味で、板でふいたように雨が漏らないことから、この名があると言われている。カエデは“カエルの手”からきている。この葉は、秋になると鮮やかに黄変する。樹は、春先に盛んに水を吸い上げるので、この時期に幹を傷つけると甘い樹液が得られ、実際にカエデ糖を生産したこともあるという。しかし、糖含量は１％程度であり、１から３％を含むカナダや北米のサトウカエデには及ばない。樹木は、ナメコ栽培の原木にも使われる。また、材は、楽器、スキー、バット等にも使われる。

エゾヤマザクラ（蝦夷山桜）

バラ科サクラ属であり、ウメ、モノ、アンズ等もこれに属する。エゾヤマザクラは、オオヤマザクラ、ベニヤマザクラともいわれ、北海道、本州、四国に分布する。４～５月、葉よりやや早く淡紅紫色の花を咲かせ、果実は直径１㎝程の球形で、成熟すると紫黒色になり苦味がある。材は、緻密であり、建築、家具、楽器などに利用され、北日本では、最も広く鑑賞用に植栽されている。花色がヤマザクラよりも紅色が強いので、ベニヤマザクラの名がある。

イチイ（一位、水松）

オンコは、いわゆる“イチイ”であり、イチイ科イチイ属の雌雄異株の樹である。イチイは、東北地方でオンコ、オッコなどと呼ぶので、この呼称が北海道に伝達したとされる。イチイは、神官の使うシャク（笏）に用いられ、仁徳帝がこの樹に正一位を授けたことから、イチイまたはシャクノキと呼ばれる。また、この他、イチイの材の色や香りが、ビャクダンに似ることから、キャラボク、ヤマビャクダン等の名もある。生長が遅く、寿命が長い樹であるため、庭木や生け垣として使われ、赤い実の中の黒い種子は有毒で、赤い果肉は食しても種は捨てなければならない。種族を繁栄させるためのオンコのチエなのかもしれない。材は、彫刻、細工物、鉛筆材等に使われる。

キタコブシ（北辛夷）

キタコブシは、北海道、本州（中北部）の日本海側に分布し、春の早い時期に基部を紅色に染めた美しい白色の花を咲かせ、たくさんのコブ状のものた集まった赤色を帯びた実をつける。葉や花の大きさは、コブシよりやや大きく、早春の北国を象徴する樹といえる。

エゾノコリンゴ（蝦夷小林檎）

別名サンナシ、ヒロハオオズミともいわれ、バラ科リンゴ属の樹である。６月頃、樹は白色の花で覆われ、９月には直径１０㎜程度の濃紅色の果実を多数つける。リンゴの台木として使用される。

ウンリュウヤナギ（雲龍柳）

中国原産の高木。日本で広く植栽されるが、普通見られるのは雄であるという。葉はシダレヤナギに似て細いが、枝はシダレヤナギがまっすぐに垂れ下がるのに対して、雲龍柳は蛇状に屈曲したりねじれたりする。生花用としても使われる。

ハルニレ（春楡）

北海道、本州、四国、九州の肥沃な沖積平野や山麓部に分布する落葉高木樹であり、北方地に多く見られる。北大のエルムのように、日本ではハルニレをエルムと呼ぶが、本来のエルムは、ヨーロッパと西アジアに産する別種であるという。ハルニレは春に花をつけるものであり、秋に花をつけるアキニレもある。材は、建築材、器具材、椎茸のほだ木等に用いる。

ヤマグワ

モクレン科クワ属。雌雄異株。日本では養蚕用に栽培された。マグワとの交配種も多い。実は黒く熟し甘く食べられる。材は、美しいので家具材、建築材、彫刻材等に用いられる。

ノダフジ

マメ科フジ属のノダフジは、本州、四国、九州が原産地である。北海道には庭木として移入される。花期は４月から６月で、房は長く下垂して３０から９０㎝におよび、色は紫

又は白である。日本にはフジ（ノダフジ）、ヤマフジの２種類がある。北アメリカや東アジアにフジ属は５種あるが、日本産のフジが最も美しいといわれている。

クリ（栗）

ブナ科クリ属。雌雄同株。６月に開花し、雄花は雌花を残し落下する。実は、１０月に成熟する。クリは、古くから童謡にも歌われているように、私たちに親しまれた樹で、陽光を好む陽樹である、クリの実はゆでたり焼いたりして食べるほか、栗飯、栗きんとん等いろいろな使い方がなされ、フランスのマロン・グラッセは特に有名である。中国のクリはシナグリともいわれ、少し小型で甘味の強いアマグリ。日本に輸入される天津栗が有名。クリの実の採取、利用は縄文中期頃に既になされていたようであり、幕末頃には地方によっては救荒食として平素からこれを貯めて置き、みだりに伐ることをいましめている。また、クリは、実ばかりでなく、材は材質が堅く、腐りづらいので鉄道路線の枕木として、かなりの量が使われたという。このクリ材の性質は、縄文人にも認識されていたようで、縄文遺跡の住居跡からクリの立柱が出ている。

オヒョウ

オヒョウは、ニレ科ニレ属の高木で別名アツシまたはアツニという。ニレの名は、樹の皮層部に繊維と粘液が多いことから、ネリやネレが変じてつけられたという。ニレの樹皮は、繊維に使われ、アイヌ民族はオヒョウの樹皮を剥ぎ、水につけて樹皮布としていた。オヒョウの繊維は、ハルニレの繊維よりも品質が良く、これを原料にしてアツシ織りが作られる。

アカマツ（ニホンアカマツ）

マツ科マツ属の樹は、雄花、雌花を一つの株につける雌雄同株の常緑樹である。アカマツは、長さ７㎝から１０㎝程の針状葉を２本１束にもつ。クロマツもよく類似しているが、針状葉は、１０㎝から１５㎝と若干長く、幹の色が前者は赤褐色であるのに対し、後者は灰黒色であるため区別できる。アカマツはメマツ、クロマツはオマツとも呼ばれる。これらのマツヤニからは、テンピン油やワニスがつくられる。

ニホンアカマツという呼称は、マツの地方名にはないが、中国名ではアカマツを「日本赤松」と記される。

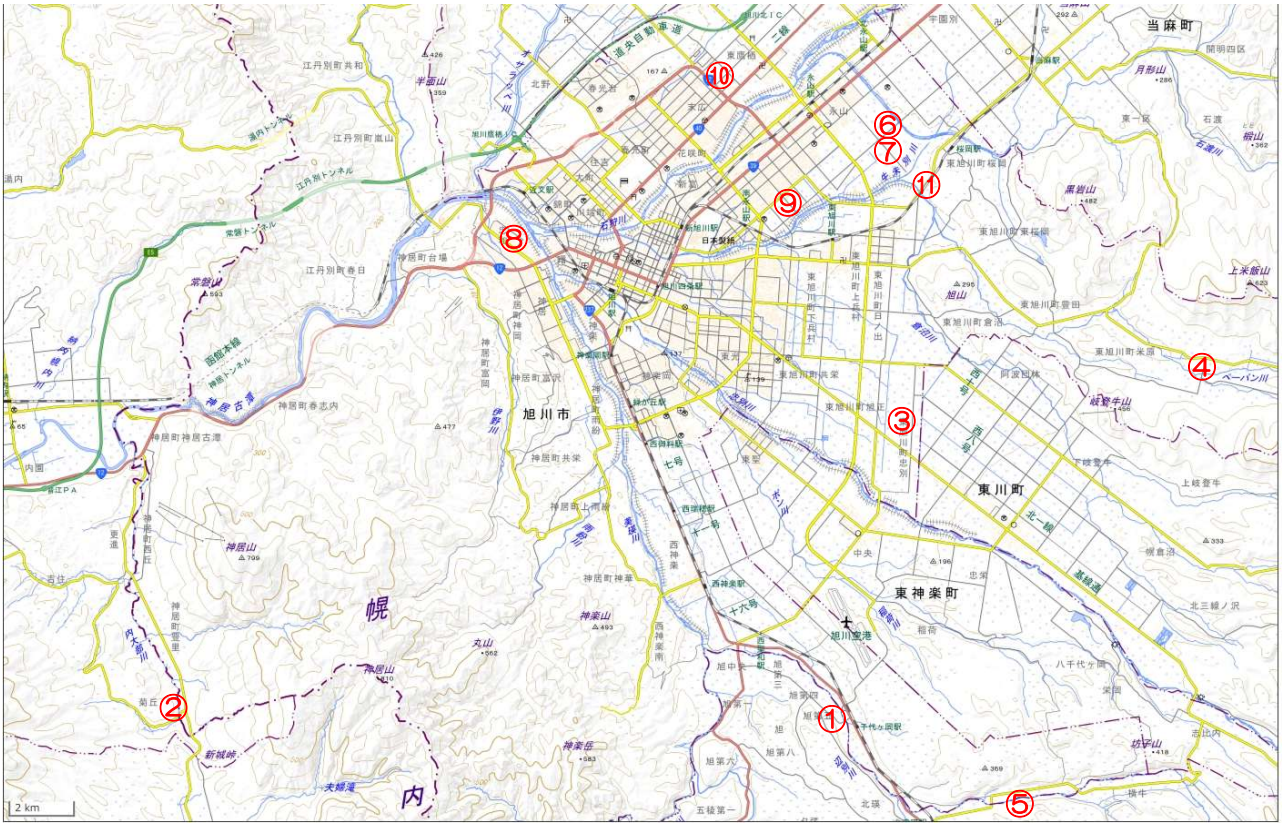
当麻町では、明治中期に屯田兵がうっそうとした大森林の開墾を進めたが、屯田兵屋がぽつんと立つ殺風景な状態となり、中隊本部によって斡旋されたアカマツの苗木を家の周囲に植えたという。このように国が斡旋したり、東旭川のように故郷の国から持ってきたのでニホンアカマツと呼称されたものと思われる。永山や東旭川地域はアカマツが見られる。同じ頃、屯田兵が入植しているので同様のいきさつで植えられたものと推察される。また、アカマツは陽樹で十分陽光の当たる場所でなければ育たない。

ウメ

バラ科サクラ属ウメは、中国原産であり、日本に伝来されて早春の花が鑑賞され香りが喜ばれる。花色は通常は白色だが、紅色や淡紅色のものもあり、それぞれ白梅、紅梅と呼ばれる。果実は、梅干しとして親しまれているが、欧米ではほとんど栽培されないという。

指定保存樹木 MAP（全体図）

No.	名称	住所
1	駅前のヤチダモ	西神楽２線 42 号
2	越前の杉	神居町豊里 304
3	往来の楓	東旭川町忠別 525
4	上南部の姫桜	東旭川町瑞穂
5	神宿るオンコ	西神楽１線 31 号
6	小鳥を呼ぶ蝦夷小林檎	永山町 16 丁目
7	射的山の雲竜柳	永山町 16 丁目（上野ファーム内）
8	シラカバ林の北辛夷	忠和３条７丁目
9	道路を曲げた楓	永山町５丁目
10	松平農場のオヒョウ	東鷹栖４条５丁目
11	三河の赤松	東旭川町桜岡 239

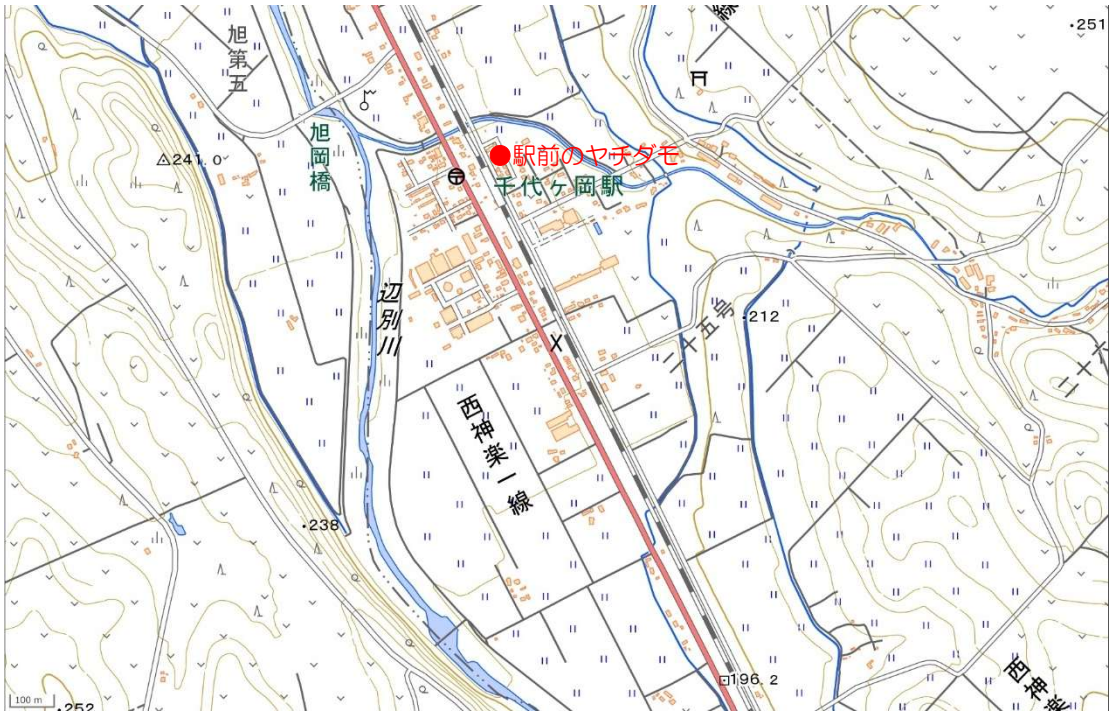


☆**市役所出発・おすすめコース**☆ 出典：国土地理院ウェブサイト（URL：https://www.gsi.go.jp/）

⑨⇒⑥⇒⑦⇒⑪⇒④⇒③⇒⑤⇒①⇒⑧⇒②⇒⑩

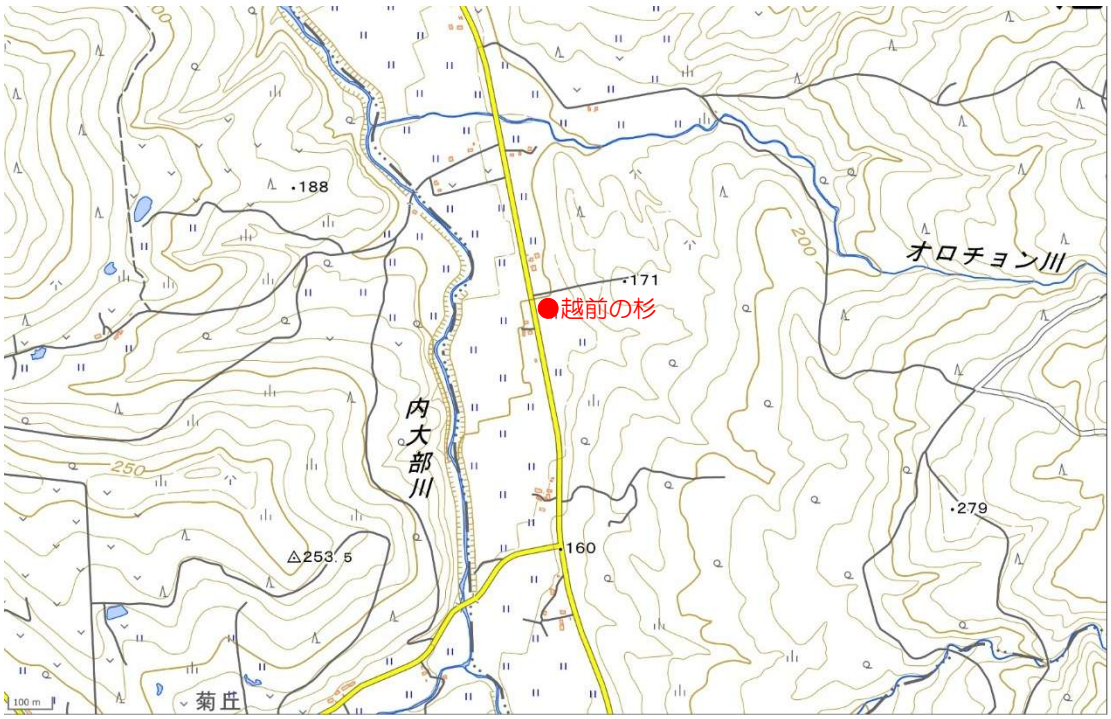
旭川の巨樹・老木マップ(詳細)

01.「駅前のヤチダモ」（西神楽２線 24 号）



出典：国土地理院ウェブサイト（URL：https://www.gsi.go.jp/）

02.「越前の杉」（神居町豊里３０４）



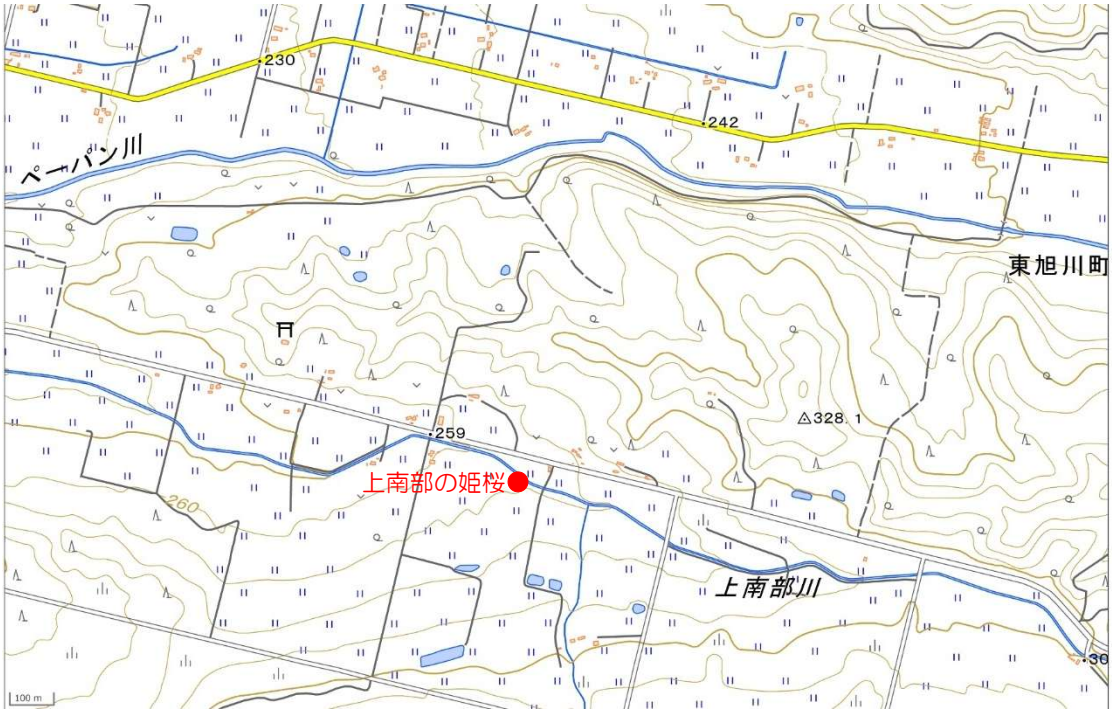
出典：国土地理院ウェブサイト（URL：https://www.gsi.go.jp/）

03.「往来の楓」（東旭川町忠別５２５）



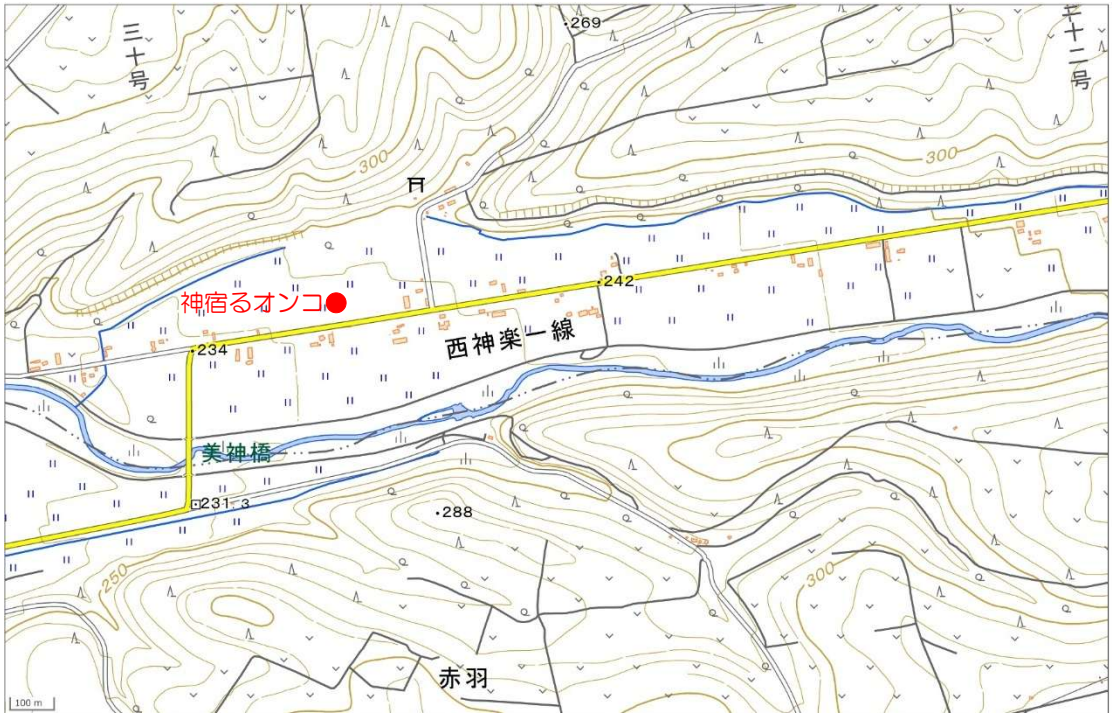
出典：国土地理院ウェブサイト（URL：https://www.gsi.go.jp/）

04.「上南部の姫桜」（東旭川町瑞穂）



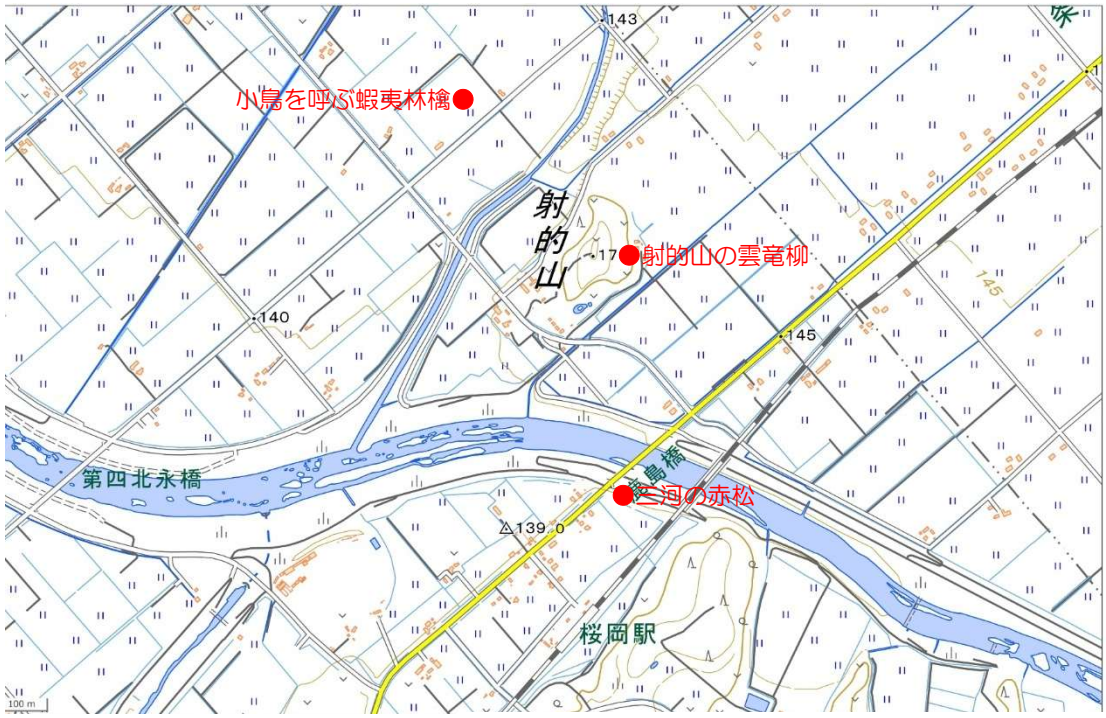
出典：国土地理院ウェブサイト（URL：https://www.gsi.go.jp/）

05.「神宿るオンコ」（西神楽１線 31 号）



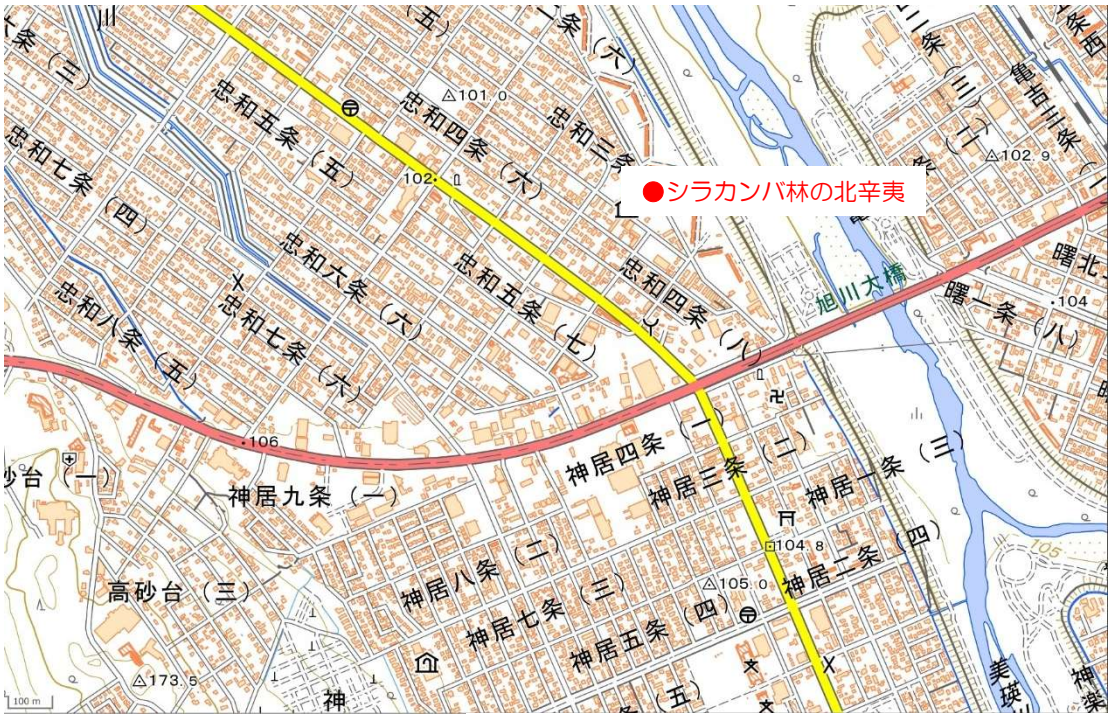
出典：国土地理院ウェブサイト（URL：https://www.gsi.go.jp/）

06.「小鳥を呼ぶ蝦夷小林檎」（永山町１６丁目）
07.「射的山の雲龍柳」（永山町１６丁目）
11.「三河の赤松」（東旭川町桜岡２３９）



出典：国土地理院ウェブサイト（URL：https://www.gsi.go.jp/）

08.「シラカバ林の北辛夷」（忠和３条７丁目）



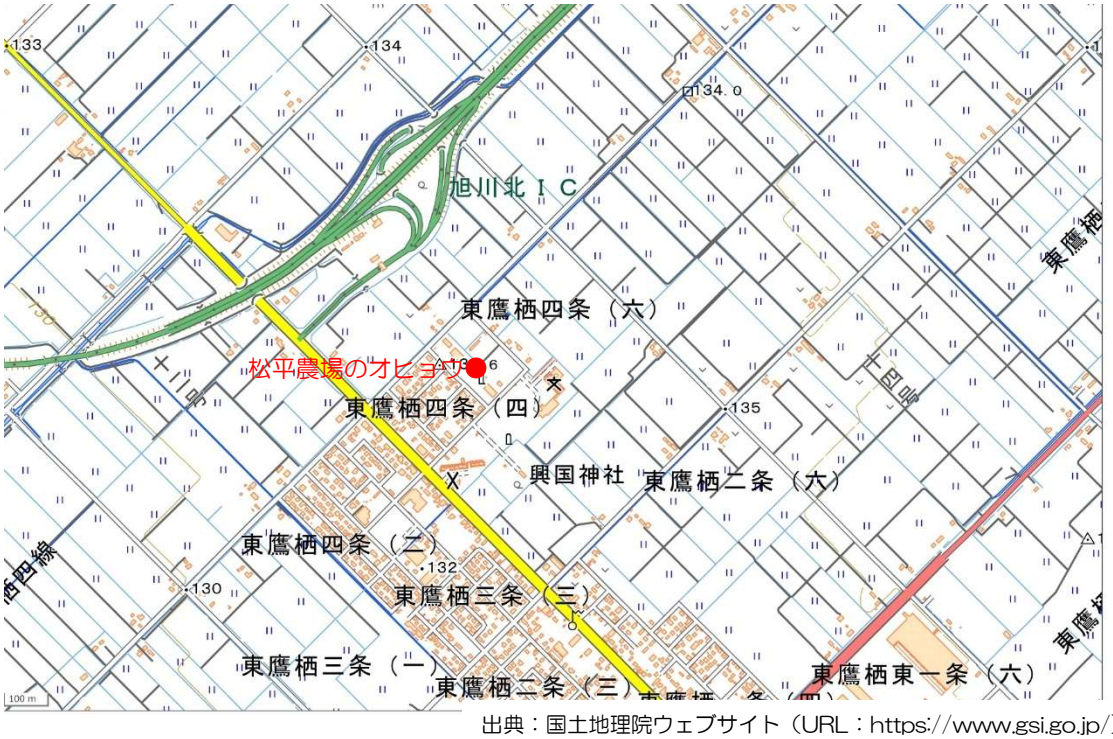
出典：国土地理院ウェブサイト（URL：https://www.gsi.go.jp/）

09.「道路を曲げた楓」（永山町５丁目）



出典：国土地理院ウェブサイト（URL：https://www.gsi.go.jp/）

10.「松平農場のオヒョウ」（東鷹栖４条５丁目）



出典：国土地理院ウェブサイト（URL：https://www.gsi.go.jp/）

【参考文献】
1.原色樹木検索図鑑（矢野左）　１９６４、北隆館
2.原色日本樹木図鑑（北村四郎、岡本省吾）　１９７５、保育社
3.当麻町野生植物図鑑　１９８５、総北海
4.世界の針葉樹（杉本順一）　１９８７、井上書店
5.稲作以前（佐々木高明）　１９８９、日本放送出版協会
6.日本の野生植物大本Ⅰ、Ⅱ（佐竹義輔、原寛、亘理俊次編）　１９８９、平凡社
7.サクラの品種（小林義雄）　１９９２、研成社
8.北海道の樹（辻井達一、梅沢俊、佐藤孝夫）　１９９２、北海道大学図書刊行会
9.日本の樹木（林弥栄）　１９９２、山と渓谷社
10.図説実用樹木学（橋詰隼人　ほか）　１９９３、朝倉書店
11.北海道の巨樹・名木　１９９３、北海道国土緑化推進委員会
12.古代技術の復権（森浩一）　１９９４、小学館
13.樹木百話（上村勝爾）　１９９５、日本林業調査会
14.日本の樹木（辻井達一）　１９９５、中公新書
15.三笠市植物図鑑（高橋嘉徳）　１９９６

旭川の巨樹・老木

平成 10 年3月 31 日　第1版発行
平成 17 年3月 31 日　第2版発行
平成 20 年3月 20 日　第3版発行
平成 23 年3月 31 日　第4版発行
令和8年 11 月 11 日　第5版発行

発行・監修　旭川市を緑にする会
〒070-8525
旭川市７条通９丁目第２庁舎
旭川市土木部公園みどり課内
TEL(0166)25-9705